



目 次

■ 館長巻頭言「くバベルの図書館」に思うこと—新入生に贈る言葉—	2
■ 寄稿「本という運命に身をまかせて」	3
■ 新Webサービス特集	
●「東京外国語大学学術成果コレクション」正式公開	4
●附属図書館OPAC"オンラインサービス"を使いこなそう！	6
■ 寄稿「パブリック・ライブラリー」と公共的であること	8
■ 附属図書館講演会報告(平成19年度)	
「歴史と冒険、史実とフィクション、そのシンクロニシティ」	9
■ 貴重書展示会(平成19年度)展示資料のご紹介	10
■ 図書館統計(平成19年9月～平成20年2月)	11
■ 図書館活動日誌(平成19年10月～平成20年3月)	12
■ 編集後記	12

〈バベルの図書館〉に思うこと

— 新入生に贈る言葉 —

附属図書館長 谷川 道子

20世紀を代表するアルゼンチンの作家ボルヘスの短編小説に、『バベルの図書館』というのがある。これは現在・過去・未来におけるアルファベット文字で表現可能なもの一切の保管庫なのだが、蔵書数の絶望的なまでの膨大さゆえに必要な書物に辿り着く事はできず、バベルの塔さながらの混乱状態を呈しているという。若い頃に司書を勤め、のちに国立図書館長にも就任したボルヘスの体験から生まれたこの寓話が、ケルンの町外れの小さな図書館を使って観客数限定で上演された。2005年の夏にドイツ・ライン河畔4都市を結んで「世界演劇祭」というのが開催されたときのこと。螺旋階段のある木造の古びた風情のある図書館で、不思議な存在感のあるブエノスアイレスの俳優三人によって、原語のスペイン語で演じられ、日本人観客の私は壁に映写されるドイツ語字幕でボルヘス特有の言語空間を追っていく。そのフィクション／現実／演技の、小説／場所／演劇の、スペイン語／ドイツ語／日本語の境界を自在に浮遊させる仕掛けは、多様な媒介項を伴った追思考に誘われて、忘れがたい観劇体験だった。

バベルの塔とは言うまでもなく、旧約聖書の「創世記」に登場する伝説上の巨大な塔のこと。ノアの洪水の後、人間はみな同じ言葉話しながら、石の代わりにレンガをつくり、漆喰の代わりにアスファルトを手に入れ、その結果、天まで届く塔のある町を建て、自らを神格化しようとした。技術の進歩が人間を傲慢にしたのだ。神はその企てを知って怒り、互いに言葉が通じないよう

に人間の言葉を混乱させ、工事を中止させた。今日、世界中に多様な言葉が存在するのは、バベルの塔を建てようとした人間の傲慢を神が裁いた結果なのとか。この塔は古代メソポタミアの中心都市バビロン（「神の門」の意）に実在し、当時は多くみられた螺旋階段状の建造物だったと言われる。西洋美術の題材の一つで、16世紀の画家ブリューゲルが描いた絵も有名だ。

グローバル化時代と言われる今日、インターネットの普及などで事実上の世界標準語としての英語の役割がどんどん大きくなって、死滅して行く少数言語も加速度的に増えてきているというが、これは人間の傲慢な企てとして、神の怒りには触れないのだろうか。もちろん不遜といわれようとも、人類共通の言語や、互いに言葉や文化が誤解なく通じ合う状況は、人間の抱き続ける夢だろうが、個別と普遍は二律背反のパラドックスでもありうる。しかし媒介項は多い方がいい。

本学は26の専攻語に分かれて入学するだけでなく、世界の多言語多文化状況を引き受けて、約50の言語が学べる大学であり、我々が図書館にもさまざまな言語の多様な蔵書がある。そもそも他者の言葉と文化を学ぶとはどういうことなのだろう——皆さんが何度も考え続ける問いだろうが、まずはこれから学ぶ言語を軸に、その多様な媒介の豊かさを、我が物としていって欲しい。

【編集注】本文中で紹介されている『バベルの図書館』は、「伝奇集」中の一編として本図書館で所蔵（請求番号 文庫/13/792-1）しています。

本という運命に身をまかせて

本学外国語学部教授 水野 善文

伝統を感じると言えば確かにそうだが、古びた建材が漂わすのだろうか、独特の香りに慣れない教室のなか、答案に向かうはずが、窓越しに、葉がすっかり散った銀杏の尖った枝先を眺め、季節の移ろいに耽りながら、鉛筆を握る手は微動だにしない。1982年2月9日、筆者はある種の心身喪失状態に襲われていた。(まさか同じ日、もうひとつの心身喪失が日航機・羽田沖墜落事故という凄惨な悲劇を生むとは。「逆噴射!」という揶揄を聞くのは辛かった。)

そうして、捲土重来を期した一年間の図書館生活が始まることになったのである。一応、学部は卒業し、研究生として残ることにした。

筆者が本学に入学して間もなく、勿論西ヶ原にキャンパスがあった時代、口の字型の1号館の、たしか北東の一部に物理的にも附属していた図書館が、それまで憩いの中庭をつぶして建てられた、まるで中洲の砦のような独立の館に移っていた。(後に筆者が研究対象とすることになったインド中世の詩人ケーシャヴ・ダースが仕えていた中央インドのオールチャー城こそ、まさに中洲の城塞である。)

ほぼ毎朝、約15分の自転車通学ならぬ、通館。まずは一時間ほど漱石でウォーミングアップしたあと、中村元先生の『東洋人の思惟方法』やインド学関係の研究書を熟読。それから、潜りで既に参加していた大学院演習の予習。これが、筆者にとって後にも先にも触れることがない超ド級に技巧的なサンスクリット文学作品。なにしろ、コンパウンド一つが数ページにもわたり、しかも全てが掛詞風に二重に解釈しなければならない代物である。1週間費やした予習が2時間の授業1コマで終わった。

そうした悪戦苦闘する姿を見守ってくれていた本のお陰で、翌年から、別の本たちに見守られな

がらの院生生活へ。あの独特の香りは実は本からも発生していることがわかったが、その香りも香りと感じられないくらいに慣れたころ、修士論文の執筆が目前に迫ってきた。指導教官の指示も仰ぎながら、幾つかあげた候補の中から一つにテーマを絞らねばならない。

噴水を横目に総合図書館に入って、すぐ右手にある図書目録室へ。当時は勿論OPACもWebcatもないから、図書館に出向いてカードボックスにしがみつき、片っ端からカードを繰らねばならない。目指すテキストを著者の名前で探しても、編者の名前で探しても、ない。テーマの第一候補をなかば諦めかけた。それでも念のため作品名で探すと、一回り小さいサイズの茶色く色褪せ周りが綻び加減のカードに文字も翳んでいたが、目を凝らして見て、あった!

19世紀末に出版されたこのテキストとの出会いがなければ、筆者の人生はおそらく今とは別の方向に向かっていただろう。

そうした本との出会いの快感は、今は、キーワードを打ち込み、画面上の検索と書かれたマスの中にマウスを操作してクリックする瞬間にしか味わえない。だから必然、回数が増える。最近は、所在が判明しても、早く手に入りたい、ずっと身近に置いておきたい衝動からネット通販を利用することが多い。先年の論文執筆の際など、和書・洋書、新刊・古本と混ぜて給料の半分以上の額をつぎ込んでしまった。

一生掛かっても、その数%読めるともされない量になるが、こうして本に弄ばれるのは、それが筆者の運命だからとしか言いようがない。

【編集注】本文中で紹介されている『東洋人の思惟方法』は、本図書館で所蔵(請求番号 A/120/509764)しています。

新Webサービス
特集「東京外国語大学学術成果コレクション」
正式公開

情報図書館課長 木村 優

● 東京外国語大学学術成果
コレクション公開

東京外国語大学学術成果コレクション (Prometheus-Academic Collections) を2008年3月1日に正式公開しました。

学術公開推進室(2007年8月までは「学術情報室」)では、本学研究教育成果の学内外への発信を目的として活動を行っており、世界で広く利用されている学術機関リポジトリ (Institutional Repository) として「東京外国語大学学術成果コレクション」(以下「Prometheusコレクション」という。)を構築・公開しました。2005年から、学内研究成果の電子化の取り組みを開始し、2006年には国立情報学研究所 (NII)「学術機関リポジトリ構築連携支援事業」による委託事業に採択されることで経費的な支援をうけ、Prometheusコレクションの本格的な構築に着手し、2007年6月15日から試験公開を行ってきました。

● Prometheusコレクションの特徴

次の2つから構成されています。

1) 研究成果コレクション

「東京外国語大学論集」、「アジア・アフリカ言語文化研究」、「東京外国語大学留学生日本語教育センター論集」、三研究所刊行雑誌などに掲載された論文のほか、本学授与の博士学位論文などです。3月現在、論文1,716件、博士論文55件計1,771件となっています。

2) 史資料アーカイブコレクション

21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」と附属図書館が協同構築してきた「電子図書館 (デジタルライブラリー/アーカイブス (Dilins))」のメタデータ、電子コンテンツおよび「南アジア史資料デジタル・アーカイブス (SARDA)」等の歴史資料のアーカイブです。3月現在、約25,000件となっています。

このような2種のコンテンツを含み多様な世界と地域を対象とするPrometheusコレクションは、きわめてユニークな存在です。

● 多言語検索機能の提供

Prometheusコレクションには、多くの言語により記述された電子コンテンツが登録されています。研究成果コレクション収録論文は、抄録・要約を文字データとして収録し、これからの検索も可能です。また、史資料アーカイブも原綴りに加えローマ字翻字での検索が可能です。これらの検索については、本学OPACで提供している多言語検索機能が同様に利用可能となっています。なお、Dilinsで提供していた「電子図書館サイト横断検索機能」は、多言語データベースシステム“VernaC” (TUFS Library VernaC for Researchers and Librarians) に統合し、図書館サイトから公開しています。

● 学術機関リポジトリとしての
Prometheusコレクション

学術機関リポジトリは、世界的な学術コミュニケーションの変革を目指す「オープンアクセ

●大学からの研究成果発信と保存

り横断検索サイト OAISter、NII「JuNii+ 機関リポジトリポータル（試験公開版）」を通じた検索が可能であり、世界からのアクセスが行われています。

公開だけでなく、研究成果の保存も機関リポジトリの重要な機能の一つです。Prometheusコレクションでは、登録論文等の1つ1つに固有のURIを付与し、Webサイトの移動などであっても変更しないこととしていますので、研究者自身のWebサイトからのリンクや他の研究者への紹介でも、このURIを示すことで永久リンクとすることができます。

例) URI : <http://hdl.handle.net/10108/28731>

● 今後の計画

東京外国語大学学術成果コレクション
Prometheus-Academic Collections
The University of Tokyo Academic Collection

ホーム このサイトについて 論文の検索・閲覧 Home English 日本語 東京外国語大学 研究

検索欄
[検索]

登録先
[戻る]

- 一覧表示
- 要目表
- 形態情報
- 自由上乗せ部
- 付録等
- 詳細一覧
- お二集
- 東京外国語大生用URL
- アクセラータリ
- 五半書式印刷
- 西暦4桁
- 知事生活年報
- 国文データベース
- PDF
- 京大附属図書館
- 京大附属図書館
- JGATE
- PRIORI
- 関係機関
- PRIDE

タイトル	トランジヤット・ペルリン：あるひは〈東〉と〈西〉のトポロギー（＝特徴）と〈西〉のディアレクティクス
邦訳副題タイトル	Transit Berlin: Or the Topology of the "East" and the "West" (=Feature East and West : A Critical Perspective)
著者	谷川 淳子
邦訳副題の著者	Taniyama, Michiko
出版者・掲載誌	東京外国語大学総合文化研究所
発行日	2007-3-15
言語	Japanese (日本国)
仲蔵種別	紀要論文
URI	http://hdl.handle.net/10108/8877/
最終更新	総合文化研究所(Trans-Cultural Studies) no.10 p.66~77
追加コレクション	総合文化研究所

当該論文への参照は、この URI をご利用ください。

添付ファイル				
ファイル	記述	サイズ	フォーマット	
ncsl006.pdf	本文(pdf版)	1109k	Adobe PDF	[ダウンロード]

[このページのトップへ移動する]

附属図書館OPAC “オンラインサービス” を使いこなそう！

附属図書館情報サービス係

平成19年3月の附属図書館蔵書検索システム（OPAC= Online Public Access Catalog）リニューアル以来、附属図書館では、利用者個人を対象とする「オンラインサービス」を充実させてきました。すでに利用されている方も多いと思いますが、オンラインサービスとは何か、このサービスで何ができるのかをご案内します。便利な機能を熟知し、今後の図書館利用にご活用ください。

● オンラインサービスとは？

あなたの附属図書館専用ID（カード番号）とOPAC専用パスワードでログインして利用する、個人専用のサービスです。

● ログイン方法は？

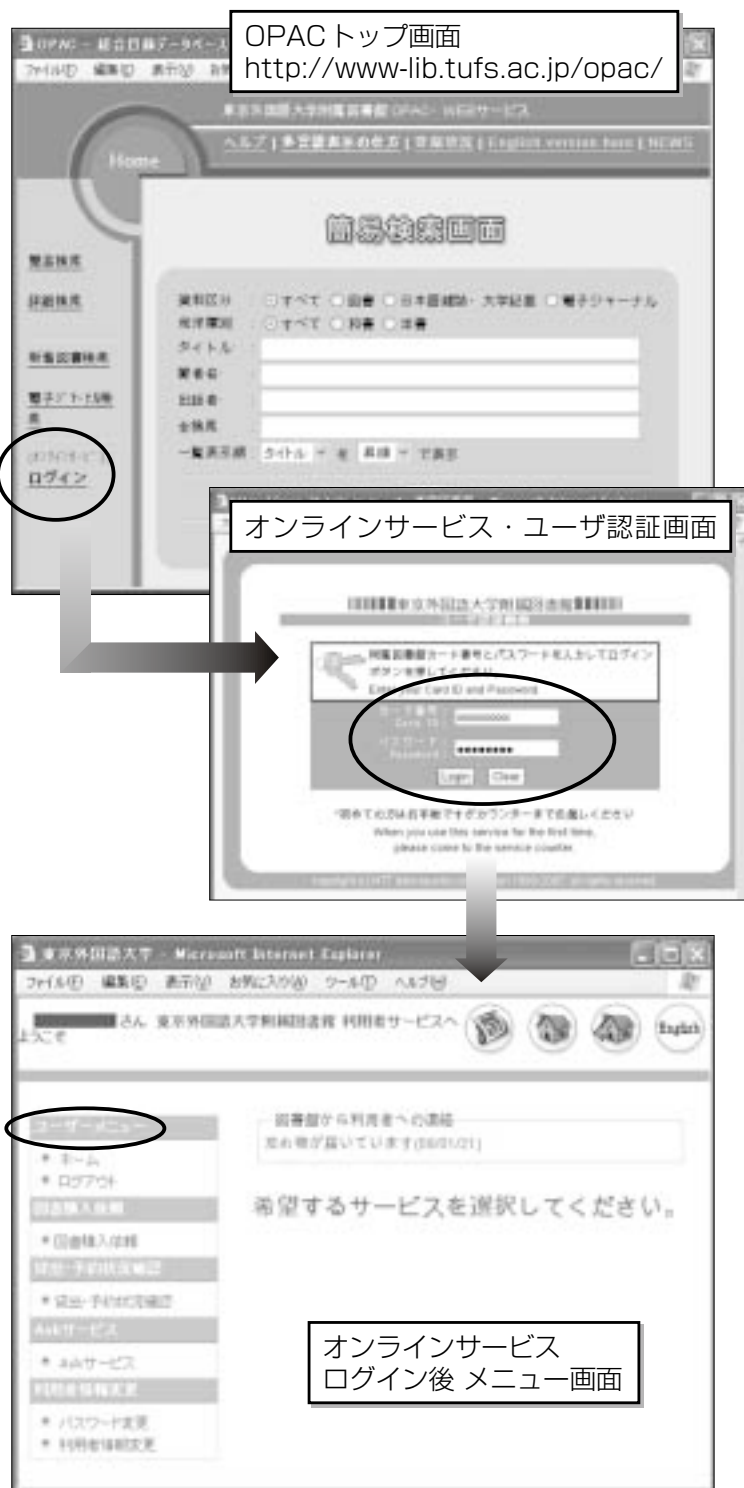
OPAC [ログイン] メニューをクリックして表示される認証画面に、カード番号(キャンパスカードに印刷されているバーコードの番号)とパスワードを入力し[Login] ボタンを押します。

● 何ができるの？

右下のログイン後の画面を見てください。「ユーザーメニュー」に記載のサービスを利用できます。希望するサービス名をクリックすると、操作画面が表示されます。

● カード番号・パスワードがわからない場合は？

附属図書館カウンターで案内します。
平日9:00～17:00の間に、キャンパスカードを持参の上、2階カウンターへお申し込みください。（新規入学生で総合科目「情報リテラシー」を受講する方は、初回講義において、総合情報コラボレーションセンターのアカウントとともに、本サービスのカード番号とパスワードが配布されます。）



● これは絶対覚えよう!!

特に便利な機能や関連サービスを紹介します。その他のサービスや利用の詳細は、認証画面にリンクしている [ヘルプ] (https://www-lib.tufs.ac.jp/help/req_help.html) を参照してください。

◆【貸出・予約状況確認】サービスで貸出延長・予約のキャンセルができます!

【貸出・予約状況確認】では貸出中資料の返却日や予約中資料の状況確認ができます。他に、貸出中資料の延長、予約中資料のキャンセルが可能です。

延長・キャンセルが可能な資料には、[貸出延長チェックボックス] および [取消ボタン] が表示されます。

現在の貸出状況は以下の通りです。

貸出延長	書名 / 責任表示	所在	図書ID 請求記号	巻冊次	貸出状況 ・返却期限 ・貸出延長	予約状況 ・予約巻	注記
<input type="checkbox"/>	歴史 / ヘーゲル [著]; 武 3F閲覧室		0000012345	上巻	貸出中 2008/02/05 (0回/1回)	0人	

☐ 市蔵人蔵

貸出延長 全てFor? 全て未For?

現在の予約状況は以下の通りです。(予約の取消が可能です)

書名 / 責任表示	所在	図書ID 請求記号	巻冊次	貸出状況 ・返却予定日	予約状況 ・予約曜日 ・予約日	注記	予約 取消
日本の童話: 国生から九	3F閲覧室	0000624759		貸出中	1[1番目]		<input type="button" value="取消"/>
○年の歩み / 柳中重一著		A/94-2/624759		2008/01/072008/01/05			

◆カード番号・パスワードを利用して、OPACから貸出中図書の予約ができます!

OPACの検索結果画面から貸出中図書の予約ができます。(返却後に電子メールで連絡します。)

[予約] ボタンを押すと認証画面が表示されます。オンラインサービスのカード番号・パスワードを入力して [Login] ボタンを押すと、予約申込画面に遷移します。

所蔵情報

所在	巻冊次	請求記号	図書ID	
3 F 閲覧室	上巻	A/134/6/11	0000012345	<input type="button" value="予約"/>
貸出中: 返却期限: 2008/02/05				

◆附属図書館に所蔵して欲しい図書をリクエストできます!

【図書購入依頼】サービスから図書の購入リクエストおよび状況確認が可能です。リクエストは、「附属図書館選書委員会」で購入採否が決定されます。

◆附属図書館へ質問や調査依頼ができます!

【Askサービス】サービスから附属図書館への質問等を行うことができます。電子メールで回答します。

この他、今後、ILL (学外からの文献複写物・図書取り寄せ) の依頼および状況確認サービスを追加する予定です。

● オンラインサービス利用にあたってのお願い

オンラインサービスには、あなたの利用情報や個人情報が表示されます。使用後は、画面を放置せず、必ず [ログアウト] してください。また、安全のためパスワードは定期的に変更しましょう。

わからないことがありましたら、お気軽に2階カウンターにお尋ねください。なお、附属図書館では、OPACやCiNiiなど文献データベースのガイダンスを行っています。こちらも、是非、ご活用ください。

「パブリック・ライブラリー」と公共的であること

本学外国語学部教授 立石 博高

「パブリック・ライブラリー」という言葉は、日本では公立図書館つまり市町村の運営する図書館という意味で使われている。それは「国立図書館（国会図書館）」のような専門研究者がおもに利用するものとは異なって、一般の人びとの利用に供される図書館として捉えられている。

もちろん、ヨーロッパやアメリカにも国立図書館（アメリカの名称は議会図書館）があり、市町村の運営する公立図書館もある。だが、「パブリック・ライブラリー」と称される図書館をすべて公立図書館と訳してしまうと、とんでもない誤訳となる。ヨーロッパやアメリカでは、私人（個人ないし団体）の設立した図書館でとくに利用制限を設けずに広く公共の利用に供しているものもまた「パブリック・ライブラリー」と呼んでいるのである。日本では「公共図書館」という言葉も使われるが、これも公立図書館の言い換えのようだ。だがヨーロッパやアメリカでは、こうした私立図書館こそが「公共図書館」つまり「公共的であること（Öffentlichkeit）」を企図した図書館なのである。

これらの図書館のなかでも有名なのが New York Public Library（ニューヨーク公共図書館）だが、それはまさに教養ある市民の育成をめざした、アンドリュー・カーネギーらアメリカのブルジョワジーの寄付によって成り立ち、今日に至っているものなのである。

スペインでも19世紀後半から20世紀にかけてマドリッドやバルセロナで、そうした教養ある市民のための文芸協会（アテネオ）と付属図書館がつくられているが、入会金や年会費の制約からして必ずしも一般庶民に開かれたものではなかった。つまり「公共的であること」の

裾野を広げようとする動きは、近代化の遅れたスペインではほかのヨーロッパ諸国と比べて弱かったともいえるであろう。

だがそうした保守的ブルジョワジーのエリート主義的な態度を批判して、一部の進歩的ブルジョワジーは、貧しい人びとに共感し、私財をはたいて庶民のだれでもが無料で利用できる「公共図書館」を設立しようとする動きをみせたのである。ある意味では18世紀的な啓蒙主義の伝統を継承しているとも言えるが、啓蒙主義者の関わった領域は実際には「財産と教養をもつ人びと」の世界にとどまったのに対して、19世紀後半のこうしたブルジョワ知識人たちは一般庶民（パブリック）の「教育を通じて」の社会的正義の実現をめざしたのであった。

そうした図書館のひとつが、バルセロナのサン・ジュアン通りにあっていまでも広く利用されている「アルス公共図書館（パブリック・ライブラリー）」である。植民地交易で財をなしたルセン・アルスは連邦共和主義とフリーメーソンの博愛主義に傾倒し、1891年の死去にあたって、その財産のすべてを「民主主義と自由と寛容」のために活用するようバルンティ・アルミライに依託した。このアルミライものに自分の蔵書を寄贈するのだが、1895年のアルス公共図書館開設時点で早くも蔵書が24,000冊、年間の読者が33,432人と記録されている。

こうして比べてみると、明治維新以後の日本では「公共的であること」へのブルジョワジーの関心がいかに低かったかを思わざるをえない。あらたな「公共性」が求められている21世紀において、公共図書館の歴史に思いをはせることも大切なことであろう。

歴史と冒険、史実とフィクション、 そのシンクロニシティ

作家 辻原 登

2004年10月11日の新聞朝刊の一面に、唐の都・長安のあった中国・西安で、8世紀前半に阿倍仲麻呂らとともに遣唐使として渡りながら、現地で亡くなった日本人留学生・井真成の墓誌が見つかった、という記事が載りました。墓誌は漢文ですが、日本語の翻訳も載っています。これが今日の講義・講演のテーマです。

我々は、日本語が漢文によって形成されたものだ、ということを不思議に思っていない。でも良く考えてみれば、奇妙で玄妙なことです。およそ1,500年前日本には文字がなかった。我々の祖先は、大和の言葉を、漢文のように書くことを願うようになった、と想像します。大和の言葉を書くには、漢字を使うしか無い訳です。

当時日本に入ってきた言語が英語だったとします。「スメラミコトガオカクレニナリマシタ」。これを英語で表現すると”The Emperor has died.” としますね。日本語というのは、”The Emperor has died.” と書いて、「スメラミコトガオカクレニナリマシタ」と読ませるんです。今の北京語であれば「皇帝已經駕死了」と書いて「スメラミコトガオカクレニナリマシタ」と読ませる。こういうシステムを発明した訳です。

古事記は日本で最初の書物です。稗田阿礼が^{ひえだのあれ}大和の言葉で話す。それを^{おおのやすまろ}太安万侶たちが、中国語で書き取ったんです。古事記の序は、最も完璧な漢語で書かれたものです。その後変体漢文へと、虫の変態のように変わっていくんです。最後に一字一音の漢字の音だけを使って表音文字を作る。「倭は國のまほろば たたなづく^{あをかき}青垣山隠れる倭しうるはし」。



^{やまとたけるのみこと}日本武尊の一番有名な歌です。「^{やまとはく}夜麻登波久^{にのまほろば}爾能麻本呂婆^た多多那豆久^{あをかき}阿袁加岐^{やまごも}夜麻碁母^れ禮流^{やまとしう}夜麻登志宇流波斯^{はし}」。漢字を音だけ使って読むわけです。その後万葉集は漢字を音だけで使い歌を書く。それからわずか250年後、わずかにです、源氏物語が女性によって書かれた。漢字仮名交じり日本語が完成する。このエネルギーと冒険の渦の中心に遣唐使の青年たちがいました。

717年の遣唐使。この時の留学生が阿倍仲麻呂18歳。22歳で科挙試験に合格している。超エリートです。752年の遣唐大使藤原清河の目的は、第1に阿倍仲麻呂を日本に連れ帰ることにあった。しかし、仲麻呂はこの時も帰れなかったのです。古今和歌集の「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも」。この歌は、悲しみの歌として千年以上我々の心を捉え、読み継がれてきました。しかし仲麻呂がこれを詠んだとき、これから懐かしい祖国へ帰れる、むしろ期待と嬉しさに胸を弾ませていた筈です。

『^と翔べ^{きりん}麒麟』、これは唐での仲麻呂の活躍を描いた小説です。これを書いているとき私はまだ

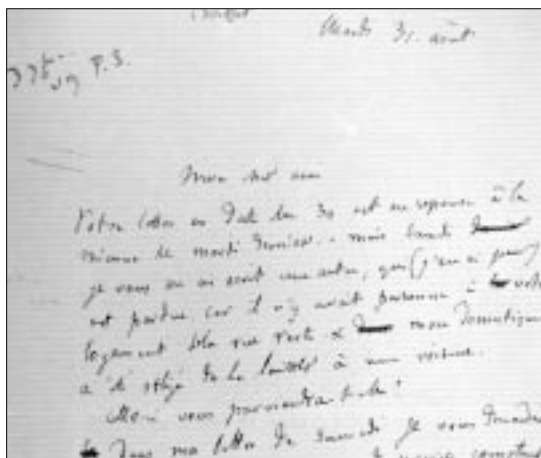
井真成の存在を知らなかった。この「天の原」の歌は、墓誌が千何百年ぶりに出てきたことによって、死んだ友を悼む友情の歌として読むことも出来る。こうして歴史的な事実の新たな発見は、歌をより味わい深く、我々を勇気付ける響きを奏でてみせてくれるのであります。

【編集注】本稿は、平成19年10月29日に開催された附属図書館講演会の要旨です。なお、文中の『翔べ麒麟』は、平成10年に読売新聞社から発行されました。

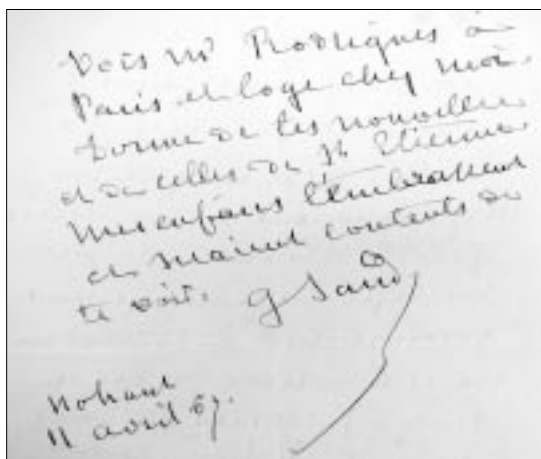


貴重書展示会 展示資料のご紹介

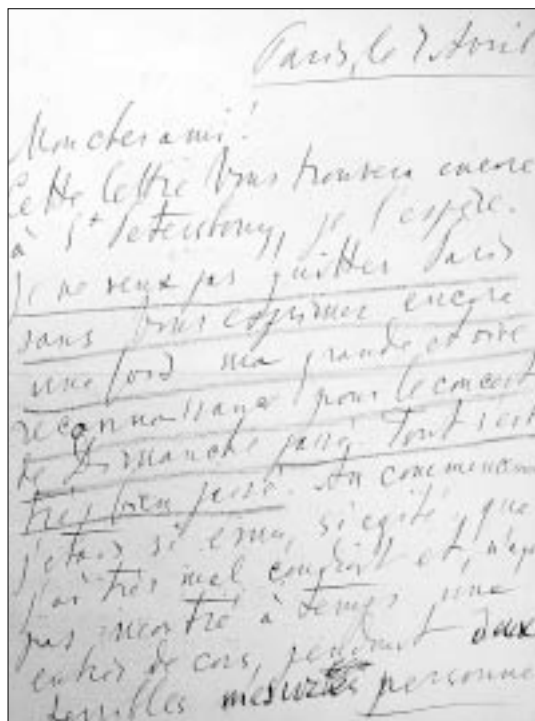
貴重書展示会（平成19年10月29日～11月22日開催）で展示した資料の一部をご紹介します。



▲フローベールが友人に宛てた手紙



▲サンドが友人に宛てた手紙



▲チャイコフスキーが友人に宛てた手紙

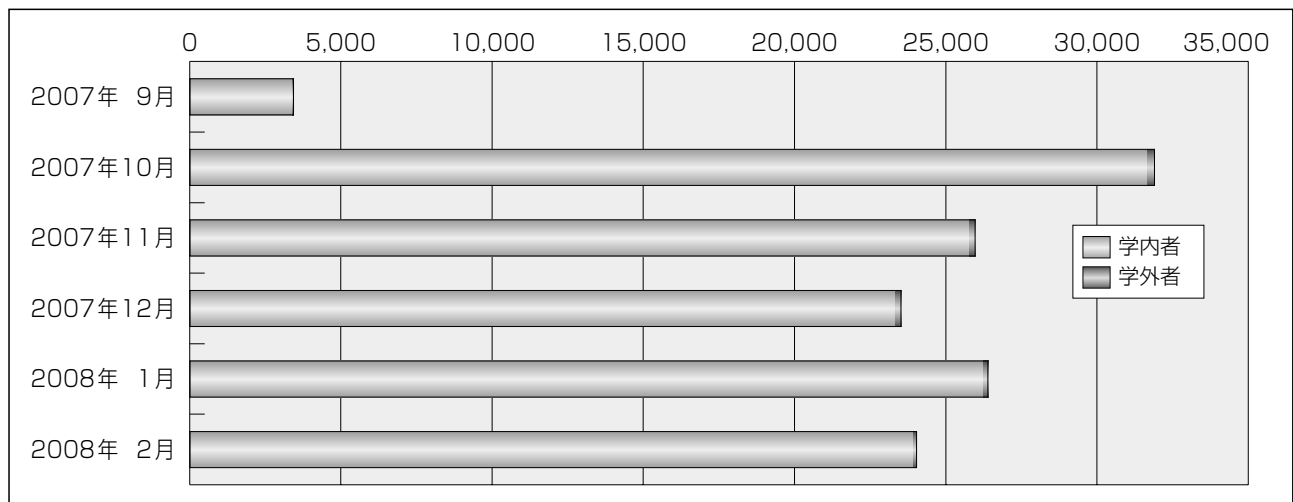
Castalia14号に紹介記事を掲載しております。併せてお読みください。

なお、資料の性質上、現物をご覧いただくことはできませんが、画像化の準備をしています。

図書館統計

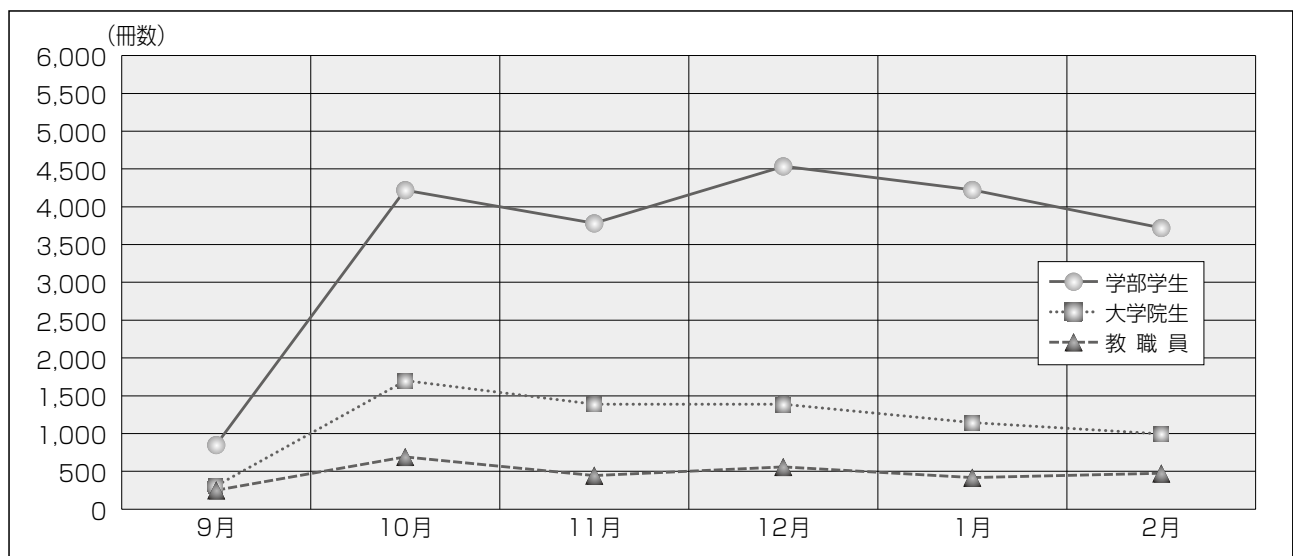
(月別入館者統計・貸出冊数統計)

月別入館者統計



	2007年 9月	2007年10月	2007年11月	2007年12月	2008年 1月	2008年 2月
学 内 者	3,375	31,636	25,761	23,319	26,203	23,914
学 外 者	65	276	219	209	198	130
合 計	3,440	31,912	25,980	23,528	26,401	24,044

貸出冊数統計



	2007年 9月	2007年10月	2007年11月	2007年12月	2008年 1月	2008年 2月
学部学生	848	4,220	3,780	4,534	4,222	3,719
大学院生	306	1,697	1,386	1,384	1,143	994
教 職 員	249	690	444	558	417	472
合 計	1,403	6,607	5,610	6,476	5,782	5,185

- 10月 2日 朝日新聞「聞蔵(きくぞう)Ⅱビジュアル」の利用開始
 10月 9日 図書館オリエンテーション(10月11日と計2日間)
 10月15日 情報検索ガイダンス(全10回 ～10月30日)
 10月17日 平成19年度第3回選書委員会
 10月29日 平成19年度附属図書館講演会(辻原登氏)
 平成19年度附属図書館貴重書展示会(『19・20世紀フランス語貴重書簡:スタンダー
 ル、サンド、フローベール、チャイコフスキー、サルトル』展示会)(～11月22日)
 10月31日 平成19年度第2回図書館委員会
 11月 5日 OPACからWeb予約サービス開始
 12月 3日 Askサービス開始
 12月 5日 平成19年度第4回選書委員会
 1月30日 デジタルリポジトリ連合国際会議2008 2名参加(於 大阪大学 ～1月31日)
 1月30日 平成19年度第5回選書委員会
 3月 1日 「東京外国語大学学術成果コレクション」正式公開
 3月19日 東京西地区大学図書館相互協力連絡会役員館会議・ミニセミナー開催
 3月21日 平成19年度第3回図書館委員会

日曜日開館開始のお知らせ

平成20年4月から日曜日開館を実施します。それに伴い次のとおり土曜日の開館時間を変更いたします。

平 日	9:00～21:45(長期休暇中 9:00～17:00) 現行どおり
土・日	13:00～18:45(長期休暇中 休館)
休 館	祝日、年末年始、毎月最終水曜日

編 集 後 記

- 図書館資料への書込は以前からよく目にしていましたが、最近には特に雑誌の記事の切り取りが増えた気がします。他の人の利用も考え、資料を損なうような行為は慎んでください。(吉田)
- 以前から要望の多かった日曜開館が4月から始まります。それに伴い土曜の開館時間も変更になります。来館者が増える時間帯にしたつもりですが、設定する側と利用する側の感覚は当然、異なるので、みなさんの反応がいまから心配です。(千葉)
- 「1日に30分でもよいから読書を! 三分の一は専門に関する本を、三分の一は古典を、残る三分の一は好きな本を」という文意の文を読んだことがあります。とても大事なことだと思いました。図書館の資料を大いに利用してください。(須郷)
- 特集記事にあるとおりWebサービスが益々充実してきました。学生の方々の先輩の博士論文や先生の論文などの全文がオンラインで見られるようになりました。来館利用とあわせて、ご利用をお願いします。(大澤)

Castalia : 東京外国語大学附属図書館報 第15号

2008年3月31日発行

発 行 : 東京外国語大学附属図書館 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電 話 : 042-330-5193 ホームページ : <http://www.tufs.ac.jp/common/library/index-j.html>

印 刷 : 三鈴印刷株式会社